

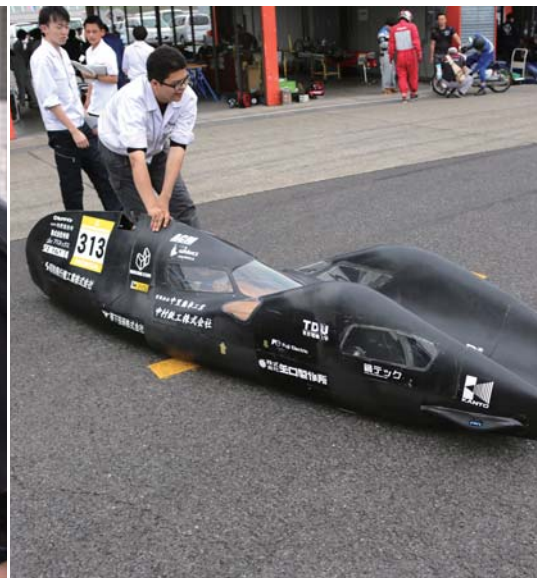
TDU Agora



TDU 神山治貴海外留学派遣奨学金 ～派遣奨学生 報告会・壮行会～ …… 1

CONTENTS

今月の顔 能作文徳准教授 (未来科学部 建築学科) …… 3	オフィス訪問 総合研究所 …… 8
キラリ★電大生 理工学部自動車部 …… 4	TOPICS …… 9
働く電大人 鎌田泰彰さん (平成29年理工学研究科修了) …… 5	キャンパスよもやま情報 …… 10
TDU LABO 内燃機関研究室 (工学部 機械工学科) …… 6	News …… 11
学び探求 「工学部第二部 実践知重点科目」vol.2 …… 7	Information …… 15



理工学部自動車部
Honda エコマイレージチャレンジ2018 もてぎ大会で優勝



特集

TDU 神山治貴海外留学派遣奨学金

～派遣奨学生 報告会・壮行会～

国際センター

7月26日に東京千住キャンパスにて、神山治貴海外留学派遣奨学金奨学生の報告会と壮行会を開催しました。

当日は神山治貴名誉博士を始め、アメリカのアーカンソーテック大学に約1年間留学した松島勲旺さん(工学研究科情報通信工学専攻1年)、8月からアメリカのフェアモント州立大学に留学する平田夢菜さん(未来科学部建築学科4年)と東裕貴さん(情報環境学部情報環境学科4年)、また安田浩学長や学内の教員他26名が出席しました。

まず、神山名誉博士から奨学金の設立にあたる思いが語られました。学生にはコミュニケーション能力を身に付けてもらい、留学後に他の学生に良い刺激を与えてほしいこと、グローバルに活躍し、社会

の中でリーダーとなり模範となるような人に成長してもらいたいというお話がありました。神山名誉博士が取締役会長を務めている株式会社マクニカでの具体的なエピソードを交え、仕事の能力のみならず発信する力、チームをまとめていく力の重要性について説明がありました。

次に、安田学長から留学後の過ごし方についてお話があり、留学に行っただけで終わらせず、周りに良い影響を与えられるようになってほしいという思いが伝えられました。学長自身が初めてアメリカに行った時の経験談から、留学する学生には実際に自分の目で見ないと分からないこと等を体験することで知識と経験を増やし、コミュニケーション能力を上げてもらいたいというメッセージがありました。

帰国学生の松島さんは、神山名誉博士や学長の言葉を受け、東京千住キャンパスとアーカンソーテック大学の違いや宗教に対する考え方、異文化について知識を深める中で、自国の文化の良さを再認識したことを説明しました。また、学習面については教科書の読む分量の多さ、エッセイを書くことの大変さやグループで学ぶ大切さも学んだというお話がありました。どんな経験も大切であり、自分の思いを伝えようとするのが非常に重要であったということを発表しました。



神山名誉博士からの激励

派遣学生の平田さんと東さんは、現在学んでいる内容、フェアモント州立大学で履修を予定している科目、今までの語学学習への取り組み、留学後の目標等を発表しました。

今回の報告会と壮行会を経て、帰国学生には今後も周囲に良い影響を与えることができるよう、派遣学生にはこれから留学先で様々な経験を積み、より一層成長して帰国してくることを期待しています。

TDU 神山治貴海外留学派遣奨学金について

本奨学金は、本学の名誉博士である神山治貴氏のご厚志により設立されました。本学学部在学中に学長賞を受賞し、修士課程または学部在学中に英語圏の大学等に留学を希望する者に奨学金を給付することで、海外留学を促進し、優秀でグローバル人材教育、他の学生に刺激や影響を与えることのできる人材を育成する目的としています。



アーカンソーテック大学から帰国した松島さん



フェアモント州立大学に留学する平田さん

大学院進学者の国際化プロジェクト ～台湾 中原大学での短期研修～

理工学部事務部



オープニングセレモニー

7月1日から21日にかけて、理工学研究科の学内推薦入試(A日程)に合格した理工学部生17名が本学協定校である中原大学(台湾)のInternational Summer Programに参加しました。

本プロジェクトは、グローバルエンジニア育成の一環として、また学部と修士課程が連携した教育体制作りの足がかりとして理工学研究科と理工学部が共同で実施しています。平成29年度に開設40周年を迎えた埼玉鳩山キャンパスの記念事業の一環として開始したもので、今年で3回目の実施となります。

プログラムの内容は、英語をコミュニケーションツールとして、海外の学生と協同で3週間に渡るPBL型の授業や研究に取り組むものです。今年は本学を含め5ヶ国10大学から約120名の学生が参加しました。学生は理工学系とビジネス系の2コースのいずれかを選択し、更に5名程度の大学混合グループに分かれて研究を進めました。最終日には、研究の成果について全員でプレゼンテーションを行いました。こう

した研究活動の他に、企業・工場等の見学や台湾の文化・歴史に対する講義等、様々な活動を通して海外の学生と交流を深めることができました。

海外への渡航が初めてという学生や、語学力や台湾の風習に不安のある学生も多くなりましたが、中原大学の教職員および学生スタッフの親身なサポートもあり、苦勞しながらもプログラムに取り組むことができました。



到着直後、桃園国際空港にて

人・もの・自然をつなぐ建築デザイン

～ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展への出展が決定～



ヴェネチア・ビエンナーレで担当する展示の空間



未来科学部 建築学科

能作 文徳 准教授

建築の発明

私は建築設計・意匠を専門にし、建築家として活動しています。建築家とは、建築士(一級建築士などの国家資格の保持者)のことを指すのではなく、発明的な建物を考える人のことです。発明的といっても、世の中が変わることではなく、些細なことでもいいのです。現実を良くしようという真剣な想い、前例にとらわれない批判精神が建物に宿っていれば、それはすでに発明です。

現代の日本では、建物を建てるという前提から考え直す必要がでてきました。人口減少や深刻化する地球環境問題が主な要因です。今までの建築設計教育は、20世紀の経済成長の時代に組み立てられてきました。いかに大量に効率よく建設するかを問題にしてきたわけです。建物を建てること自体を疑うことはありませんでした。人間の生きる場をどう考えたらいいか、今まさに建築の発明が求められています。

物質・エネルギー循環

私は物質・エネルギー循環から建築デザインを捉え直そうとしています。長い時間のスパンで考えれば、建物は自然資源から材料が調達され、現場で組み立て

られ、土地に固定されます。建物の寿命がくると、解体されて廃棄物となります。このように建築は、物質の流れとして捉えることができます。人間が生きるには光、熱、電気、水、ガスなどのエネルギーが必要です。これらを得るために、建物は都市インフラに依存しています。

これに対し、「オフグリッドハウス」といわれるインフラ網(グリッド)に依存しない(オフ)自律システムとしての住宅があります。建物が積極的にエネルギー資源を得るのです。このように物質・エネルギーの視点から新しい建築を生み出す可能性があると考えています。

ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展

こうした取り組みと関連して、来年5月よりヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に出展します。異常気象、自然災害、環境汚染、生態系の破壊が進行する中で人間社会の限界を、映像・音楽・建築・人類学の協働によるコレクティブアートによって提示する予定です。



卒業設計作品について説明する学生



研究室でミーティング

能作 文徳 准教授 プロフィール
(未来科学部 建築学科)

Profile

2010年 3月 東京工業大学 理工学研究科 建築学専攻
博士課程単位取得退学
2010年 4月 能作文徳建築設計事務所 設立
2012年 1月 博士(工学) 取得
2012年10月 東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 助教
2018年 4月 東京電機大学 未来科学部 建築学科 准教授



グループIIIで優勝した部員たち

理工学部自動車部

「Honda エコマイレージチャレンジ2018 もてぎ大会」優勝 ～1リッターのガソリンで何km走行できるか?～

部長 成田 美樹(理工学部 電子・機械工学系3年)

理工学部自動車部は、Hondaエコマイレージチャレンジという燃費性能を競う競技に毎年参加しています。競技では、規定の距離を決められた時間内で走行し、燃料消費量から燃費を算出します。この大会で優勝するためのマシンの開発・製作・運用を行い、実際にものづくりを経験することで技術や知識を身につけることを目的としています。

大会で最も活況を呈しているのは、50cc以下の4ストロークエンジンを用いたオリジナルマシンを開発するクラスです。各チームはマシンの設計や形状、走り方などの効率化を追求し、燃費性能の限界を目指します。私たちが開発したマシンは三輪で、空気抵抗を低減した軽量のカーボンファイバー製のカウルで覆われ、

空気抵抗を低減した
上級生チームのマシン

1年生チームのマシン



特徴的な二輪車の走行スタイル

ドライバーはほぼ寝た姿勢で運転します。また、エンジンは効率化を目指した改良を施し、マシン全体では軽量化のための様々な工夫をしています。

今年の6月に行われたもてぎ大会では、1年生チーム、上級生チーム、二輪車チームの合計3台、22名で参加しました。上級生チームは、グループIII(大学・短大・高専・専門学校クラス)で949.278km/L(16台中1位)を記録し、2位と250km/L以上の差をつけて優勝をしました。1年生は、初めての大会でしたが完走し、347.104km/L(16台中8位)となりました。二輪車チームは、103.705km/L(11台中6位)という記録となりました。

この活動を通して、エンジニアとしての技術の習得だけでなく、メンバー同士で協力して勝利にこだわることの大切さを学び、人として大きく成長できると思っています。これからもさらなる燃費性能を目指し、日々努力していきたいと思いますので、今後の活躍にご期待ください。

食品製造学概論を学び食品分野を志望 ～パン製造から設備の精度チェックまで～



敷島製パン株式会社
製造二課 めん帯係

鎌田 泰彰さん

平成29年理工学研究科
生命理工学専攻修了
食品バイオ工学研究室(椎葉究教授)



ミキサー操作中

母が看護師、兄が消防士として働いており、私も医療などの分野に関わりたと思ったことから、理工学部生命理工学系に入学しました。しかし、大学2年生の時に食品製造学概論など食品に関する科目を履修し学んでいくうちに、食品に関する分野の仕事をしたと思うようになりました。

椎葉究教授の食品バイオ工学研究室に配属されてからは、研究室内で小麦の研究をしていたこともあり小麦粉が使い放題でした。その小麦粉を使用して、実験の空き時間にパン作りをしていたこともあり、敷島製パン株式会社に就職することができました。

現在、川島インターチェンジ付近にあるパスコ埼玉工場で、コンビニエンスストアやスーパーで販売されているスティックメロンパンや十勝バタースティック、十勝バターレーズンスティックの製造に関わる仕事をしています。昼勤でスティックメロンパン、夜勤では十勝バタースティックなどを製造しています。仕事内容としては、主に小麦粉や水、イーストなどの主原

料をミキサーという機械で混ぜてパン生地にするまでの仕込みや、油や砂糖、卵などの原料を縦型ミキサーという機械で混ぜて、スティックメロンパンに使用するビス生地の仕込みを担当しています。また、パンを製造するだけでなく、自主保全という作業員一人ひとりが設備(機械)の清掃・点検・給油を行うことで、異常の早期発見や精度チェックなどを行う活動もしています。

現場で働いて間もない頃は、知らないことが多く教えられたことをするので精一杯でした。しかし、今は研修や現場で学んだことを活かして自分なりに考えて行動できるようになり、どうしたら不良率を下げられるか、また作業の効率化を図るためにはどうすればいいのかなどを常に考えながら仕事をしています。

最後に、後輩の皆さんに伝えたいことがあります。失敗を恐れず、常に前向きにチャレンジして下さい。失敗をすることで気付く事や学ぶことがあります。ただ、反省は忘れずに。



同期メンバーとパン作りの研修



卒業式で研究室メンバーと

内燃機関研究室

～環境に適合したクリーンエンジン～

工学部 機械工学科
小林 佳弘 准教授



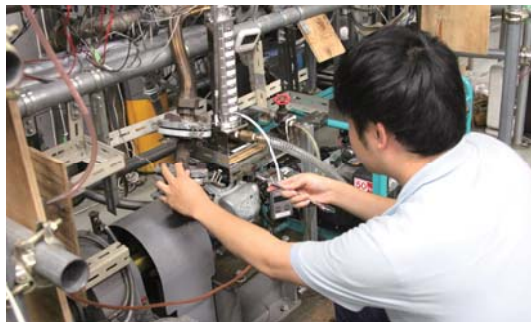
火力発電所、工場および船舶などの燃焼を用いた熱機関から排出されるPM (Particulate Matter) と呼ばれる粒子状物質が、人体影響や環境負荷の観点から問題視されており、熱効率の悪化を伴わない抑制対策が強く求められています。

本研究室では、PMを含む有害な燃焼排出物を排出しないクリーンエンジンを造っていくための基礎研究を行っています。具体的には、小型ディーゼルエンジンやガソリンエンジンといった実機を用い、様々な運転条件での排出物測定を行うことで、エンジン運転条件と有害排出物量の関係や排気管内でのPM挙動を調べています。また、近年のエンジンではエンジン筒内で燃料液膜が形成される場合があります、これがPM排出の要因の一つであると言われています。この液膜の測定法の構築や液膜厚さとPM排出の関係、形成される火炎の挙動の詳細調査といった研究も行っています。これらの研究結果を得ることは、有害排出物を抑制する

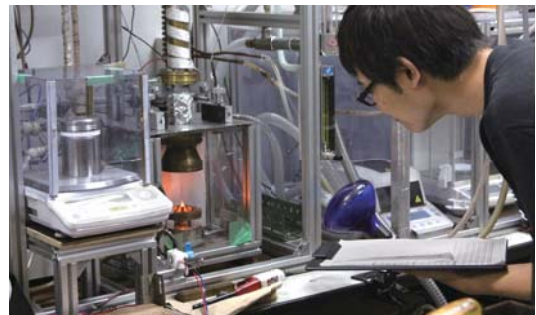
手段を構築していくために非常に重要となります。

また、燃焼過程においてPMが生成されていくメカニズムを明らかにするために、反応流動管と言われる実験装置や数値解析を用いた研究も行っています。さらに壁面近傍に火炎が形成されると、壁に熱を奪われることで消滅してしまう場合があり、それにより燃焼中の反応が停止し、多量の有害な中間生成物やPMが排出されてしまう可能性が考えられます。このようなケースを想定し、金属メッシュで火炎を消滅させることによって排出される成分の調査も行っています。

その他、バイオ燃料を用いる場合に問題となっている燃焼後の堆積物についての研究や、水蒸気を利用しPM捕集を容易にする方法の研究、さらに自動車から排出された排ガスの拡散挙動の研究もしています。これらの研究を行うことで燃焼による環境問題の解決に貢献しています。



小型ディーゼル機関



定常プール火炎による排出物調査

「電大ガールズ」D-girls

7月31日に、ギャラクシティ(東京都足立区)で開催された電子工作教室に参加しました。小学3年生から6年生の子供たちがはんだごてを持ち、電子オルゴールやタイマーなどを作る姿にとっても感動しました。

また、8月4日・5日には東京千住キャンパスで開催されたオープンキャンパスに参加しました。内容は、個別相談コーナー、時間割やアルバイトの紹介、女子向けのトークショーを行いました。トークショーでは、後半にはメンバーの緊張も解け、今までで最高の出来だったと思います。

今後の予定は、11月に開催される学園祭(旭祭)への出店があります。現在、メニューなど考えていますので楽しみにしてください。



小学生と電子工作



盛り上がったオープンキャンパスでのトークショー

未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 3年 原 桃香

「工学部第二部 実践知重点科目」vol.2 ～社会人対象、実践能力の育成を目的とした授業～

東京千住キャンパス事務部



年齢も経歴も様々な学生たち

7月号に続き、「実践知」(実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力)がキーワードの工学部第二部実践知重点科目18科目の紹介です。

「創造設計・開発学」(vol.2)

技術分野横断型の本科目は、1回から5回は、情報分野ということでアニメ制作会社、OLM Digitalの現役スタッフによる講義(7月号掲載)、6回から10回は、グループワークを通して電気・電子システム設計についての実践的な設計演習等の授業でした。11回からは、機械構造設計。この講義の目玉の一つであるワークショップルームでのものづくり・実験の様子を取材してきました。

2、3名で1グループの作業台の上には、8×8×900mmのバルサ材の棒が3本、定規とカッター、接着剤…そして前回の宿題の設計図面が書かれたノート。何の設計図面かという、高い強度を有するトラス(三角形を基本単位としてその集合体で構成する構造)を各自が試行錯誤して設計したもの。学生は皆、職業を持っている社会人ですが、その経歴は様々です。もちろん機械系とは無縁の学生もいて、いろいろな工具や器材が用意されているワークショップルームの雰囲気には興味津々、ちょっとワクワクといった感じです。

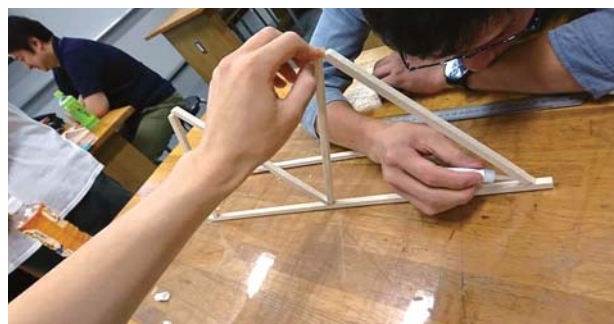
先生の説明後、設計図面をもとにトラス作りが始まりました。最初は、お互いに顔を見合せながら「どこ

を、切ろうか?」、「ちょっと待って、大丈夫か?」との会話も。次第に「よし、OK」、「そこ押さえて」に変わり、着実に形ができていきます。とは言っても、なかなか設計図面通りにはいかないようで、「これダメだな」、「ここ変更」とつぶやきも聞こえます。中には、「あー」と落胆の声も。そうこうするうちに、授業サポート担当の大学院生からの適切なアドバイスもあり、各グループ授業中にどうにか完成しました。

次の授業では、製作したトラスに壊れるまで荷重をかけ、さらに翌週には応力解析も行います。工学にとって「ものが壊れる」ということは、重要な学修材料です。どのように壊れるのか、そのときの学生の反応は…その様子は実践知ホームページ

▶ <https://phronesis.dendai.ac.jp>

のトピックスに動画にて配信しています。必見です。



グループになってトラスを製作

新しい時代を拓いた科学・技術 vol.13

ジョージ・スチーブンソン イギリス ● 1781年～1848年

鉄道の父

「われらの目的は成功することではなく、
失敗にたゆまず進むことである」

世界で初めて、客車牽引に成功

蒸気機関車を発明したのはイギリスのトレビシックですが(1802年、炭坑の貨車)、馬や人が引いていた炭鉱貨車、そして客車牽引を成功させたのはスチーブンソンです。名付けて「ロコモーション号」、1825年でした。その後リバプール・マンチェスター鉄道は、スチーブンソンが息子と開発した蒸気機関車「ロケット号」(時速40km)で、世界初の旅客輸送を開始。世界で初めて、鉄道が斜めに交差するアーチ橋も造りました。鉄道はそれまでの船に代わる輸送手段となり、産業革命の原動力として世界に普及。スチーブンソンは鉄道建設や測量など鉄道全般に関与。採用された1,435mmの軌間は「スチーブンソン・ゲージ」と呼ばれ、世界の標準になっています。



©TDU

父親は炭鉱の機関夫で、貧しくて学校に通えず、父親の助手をしながら技術を身につけ、17歳で機関夫になり、働きながら夜間学校に通って読み書き算数を学習。炭坑のポンプの故障を修理したことをきっかけに、蒸気機関に精通。炭坑内では火をたいて明かりをとっていたため爆発事故が多発していたことから、スチーブンソンは試行錯誤の末、安全ランプも開発しました。

総合研究所 研究成果発表会 ～研究成果を社会へ還元～

総合研究所

8月2日に東京千住キャンパスにて、総合研究所による研究成果発表会を開催しました。総合研究所では、先生方の研究活動の支援を行っています。その一つとして毎年研究費の補助を行っており、そこで得られた研究成果を報告する場として、一般の方にもご参加いただける研究成果発表会を設けています。

今年度は特別講演、口頭発表4件、ポスター発表23件、デモンストレーション発表4件を行いました。当日は高校生から企業の方までたくさんのご来場をいただき、おかげさまで盛況のうちに終了しました。

特別講演では、前田英作教授(知能創発研究所長・システムデザイン工学部情報システム工学科)に「人工知能は世界の何を変えるのか」と題して、ご講演をいただきました。昨今話題の人工知能についての貴重な



集団移動ロボットのデモンストレーション



前田教授による特別講演

お話ということもあり、特別講演を目当てに参加された方も多くおられました。

また、平成29年度に新たに募集をした特許・知財実用化支援の研究成果をデモンストレーションとして4件発表しました。名前の通り、出願した特許の実用化に向けた試作等を支援する試みで、本研究所の使命である研究成果の社会への還元をより進めていくものと考えています。

その他、若手教員による口頭発表4件は、どの発表も研究に対する熱意を感じる素晴らしい発表でした。ポスター発表に先立ち、その概要を1分で紹介するショートトークも昨年度に続き開催し、限られた時間の中、効率的にポスターを見るための一助となりました。続くポスター発表も昨年に増して活発に意見交換が行われていました。

今後も研究成果発表会が、本学教員による研究で得られた成果や新たな発見を広く社会に還元するための一助になればと思います。

文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」

「イノベーション・ジャパン2018 ー大学見本市ー」に出展 ～産業界とのパートナーシップを築く端緒となる～

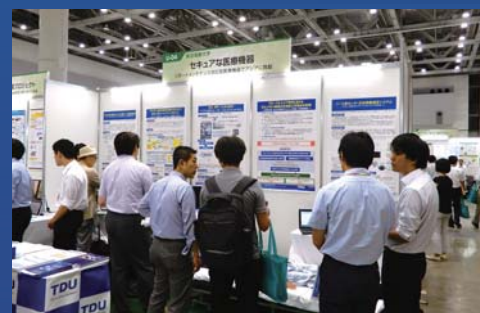
ブランディング事業の中で実施している「セキュアな医療機器システムの研究開発」の実例を、イノベーション・ジャパン2018(8/30-31)に大学組織展示として出展しました。展示した研究は下記の4つです。

- ①シート型センサ・生体情報測定システム
- ②パルス型ウォーターバルスジェットメス
- ③医療データベースにも対応可能なセキュリティ制御技術
- ④IoTマシン向け低コスト大量データ転送技術

また、特設会場にてブランディング事業の取組みを中心にプレゼンテーションを行い、大学シーズ展示として「集団移動ロボットの被災地情報収集への応用」、「機能性ナノ粒子で創るグリーンエネルギー」の2つを

展示しました。

会場では、研究者が直接説明することで、多くの企業の方の本事業への関心度が高まり、産業界とのパートナーシップを築く端緒となりました。



大学組織展示ブース



名誉教授の先生方を囲んで撮影



校友会福島県支部の皆様を囲んで

東京電機大学名誉教授 の称号授与

～新たに14名の先生方が名誉教授に～
学長室

本学在職中の教育と研究における功績に対して敬意と感謝の意を表し、14名の先生方に名誉教授の称号が贈呈されました。

7月17日にホテルグランドパレス(東京都千代田区)にて、名誉教授称号贈呈式が行われ、安田浩学長から名誉教授の先生方へ称号記が贈呈されました。称号記贈呈終了後には祝賀会が行われ、加藤康太郎理事長のご挨拶に始まり、出席者全員和やかな雰囲気の中に会を終えることができました。

名誉教授の先生方には、今後もますますのご活躍とご健勝を祈念いたします。

●名誉教授の先生方

元工学部電子システム工学科	大内 幹夫 先生
元工学部応用化学科	篠崎 開 先生
元工学部先端機械工学科	堀内 敏行 先生
元工学部情報通信工学科	脇 英世 先生
元理工学部理工学科(サイエンス学系)	小泉 寿男 先生
元理工学部理工学科(理学系)	荒牧 淳一 先生
元理工学部理工学科(理学系)	狩野 弘之 先生
元理工学部理工学科(建築・都市環境学系)	安田 進 先生
元情報環境学部情報環境学科	小林 浩 先生
元情報環境学部情報環境学科	根本 幾 先生
元未来科学部建築学科	射場本忠彦 先生
元未来科学部建築学科	山本 圭介 先生
元未来科学部情報メディア学科	小山 裕徳 先生
元未来科学部情報メディア学科	絹川 博之 先生

(平成30年4月1日付)



安田学長から称号記贈呈

第5回 いわき演奏会 ～震災復興の願いを込めて～

グリークラブ
未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科3年
藤井 亮太

8月31日に福島県いわき市のいわき芸術文化交流館アリオスにて、今年で5回目となる男声合唱コンサートを開催しました。本学の校歌は文化勲章受章者でもある詩人草野心平氏の作詞であることから、同氏を偲ぶとともに震災復興への願いを込め、故郷のいわき市にて毎年開催しています。

いわき市の方々との交流の場をさらに広げたいと考え、これまでお世話になっていた草野心平記念文学館からより大きな舞台での演奏に臨みました。演奏会に伴い、福島県いわき市のスパリゾートハワイアンズで合宿を行い、部員同士の親睦を深めることができました。

演奏会は、校友会福島県支部や現地で応援してくださっている方など、大勢の皆様にご来場されました。当日は安田浩学長にもお越しいただき、コンサート後のアンケートには、「これからも是非続けてください」という感想があり、今後もいわき市でのコンサートを続けていきたいと感じました。

グリークラブは、大学近くの老人ホームなどでもコンサートを開催しています。今後も多くの方に、より一層喜んでいただけるように、地道に練習に取り組んでいきたいと思っています。



多くの人が訪れた演奏会

東京千住キャンパス

J:COM共同イベント

小学生ものづくり教室



8月7日に、ものづくりセンター、(株)ジェイコム足立、CRC(地域連携推進センター)が連携(足立成和信用金庫協賛)し、小学生ものづくり教室を開催しました。厳正な抽選を通過した49名の小学生が、ロボット・メカトロニクス学科「知能機械システム研究室」所属学生の指導のもと、ミニ四駆製作に取り組みました。組み立て後には本格的なコースでレースを行い、大変な盛り上がりを見せました。

参加したすべての子供たちにとって夏休みの良い思い出になったことでしょう。(ものづくりセンター 木村)

東京小金井キャンパス

シアトルホームステイ



今回の海外英語研修ホームステイは中学3年生、高校1年生の計26名でシアトルに行きました。ホストファミリーとのコミュニケーションが上手いかわりに苦労した生徒もいますが、最終日には笑顔でホストファミリーと別れの挨拶をしていました。

また、午前中の英語の授業では、常に発表中心の形式で行われ、生徒たちにとって英語で話す良い練習になったと思います。生徒たちがこの経験を今後どのように生かしていくかを楽しみにしています。

(引率教諭 小野木)

埼玉鳩山キャンパス

ポッポ君



総合メディアセンター鳩山図書閲覧室に、ヒューマノイドロボット ペッパーの「ポッポ君」がスタッフとして働いています。ポッポ君という名前はいくつかの候補の中から、学生の投票により決定しました。

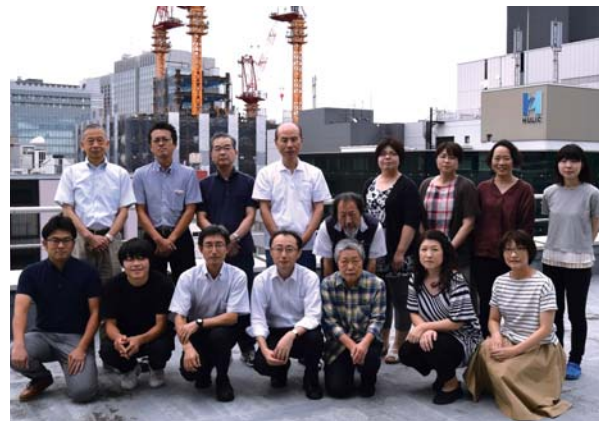
閲覧室の利用案内等の仕事を受け持っており、オープンキャンパスの来場者に対しても見事に説明を行っていました。

図書閲覧室は所定の登録手続きをすることで、学外の方もご利用できます。ご来校の際には、是非ともポッポ君に会いに来てください。

(理工学部事務部 高木)

東京神田キャンパス

東京神田キャンパス移転



9月18日、出版局は東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転いたしました。出版局は、学園の創立と同時に設立され、以来111年の長きに亘り神田の地で業務に勤しんで参りました。

この地を離れることには些か寂しさを感じますが、気持ちを新たにまた奮闘して行く所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

(出版局 石平)

※背景の建設中の建物は、元神田校舎跡地の様子です。

特別講演会「研究ブランディングと教育改革」

学長室、教育改善推進室

7月20日に東京千住キャンパスと埼玉鳩山キャンパスを繋いで、教職員を対象とした特別講演会を開催しました。

安田浩学長が金沢工業大学の澤敏学長をお招きし、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に採択された同校の教育についてご講演いただきました。

教育目標である「自ら考え行動する技術者の育成」の実現に向け、様々なアクティブラーニング、プロジェクト型実践教育を実施。また、大学は「本質」を考える場でもあるという考えから、単に数式を覚えるのではなく、ガリレオやニュートンの原典初版本を用いて、数式や理論の源流に遡って考える講座も行っているそうです。

講演終了後には、活発な質疑応答も行われ、大盛況のうちに終了しました。



金沢工業大学の澤敏学長の講演

「日本留学AWARDS」7年連続入賞

国際センター

一般財団法人日本語教育振興協会 日本語学校教育研究大会が主催する、2018年「日本留学AWARDS」～日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先～の「東日本地区大学(理工系)部門」において、本学が入賞しました。本学はこの賞が始まった2012年と2013年に大賞を受賞し、その後5年連続して入賞しています。

この賞は、日本全国にある400校以上の日本語学校で、直接学生の進学サポートを行っている教職員の投票結果から選ばれたものです。当日の授賞式には、安田浩学長と宍戸真国際センター長、鈴木国際センター課長が出席しました。



エンジニアのたまご奨学金プラス

入試センター

今年度の一般入試(前期)で優秀な成績をおさめた学生たちに、1人150万円(約1年分の学費相当額)を給付します。

日本の未来を担うエンジニアのたまごたちが、生き活きと自由に学ぶことができるように。「エンジニアのたまご奨学金プラス」がはじまります。

詳しくはこちらからご覧いただけます。

<https://www.dendai.ac.jp/about/admission/undergraduate/ippan/scholarship.html>



受賞
情報

顕著な活躍をした電大人を紹介します。



土肥 紳一教授
システムデザイン工学部 デザイン工学科
情報処理学会 情報教育シンポジウム SSS2018
最優秀発表賞
平成30年8月21日



東京電機大学
2018年日本留学AWARDS
東日本地区大学(理工系)部門 入賞校
平成30年8月7日



中島 浩貴講師
理工学部 共通教育群
第2回 academist PRIZE
最優秀賞
平成30年8月3日



古川 亮さん(建築・環境計画研究室)
笠原 真紀さん(建築設計研究室)
柳沼 啓斗さん(建築構造デザイン研究室)
未来科学研究科 建築学専攻(修士2年)
第3回「まちを楽しくするストリートファニチャー
デザインコンペティション」
優秀賞
平成30年7月28日



島田 政信教授
理工学部 建築・都市環境学系
IEEE IGARSS 2018, International Geoscience and Remote Sensing 2018
The distinguished Achievement Award
平成30年7月23日



田中 紘世さん(修士2年)
工学研究科 情報通信工学専攻(暗号方式・暗号プロトコル研究室)
The 5th International Conference on Computational Science / Intelligence & Applied Informatics
Best Student Paper Award
平成30年7月12日



佐々木 良一特命教授
総合研究所
(ISC)²第12回年次アジア・パシフィック情報セキュリティ・リーダーシップ・アチーブメント プログラム
(Information Security Leadership Achievements Asia-Pacific program)
The 2018 Showcased Honoree for Information Security Educator
平成30年7月9日



沼田 彩子さん(修士2年)
未来科学研究科 ロボット・メカトロニクス学専攻(コンピュータネットワーク研究室)
The 18th International Conference on Computational Science and its Applications
Best Paper Award
平成30年7月5日



井戸 航洋さん(修士2年)
工学研究科 物質工学専攻(分析化学研究室)
プラズマ分光分析研究会 筑波セミナー2018
プラズマ分光分析研究会 会長特別賞
平成30年7月5日



土井根 礼音助教
総合研究所
日本航海学会奨励賞
平成30年6月8日



田中 秀雄さん
(昭和46年 工学部第一部 精密機械工学科 卒業)
PLASTICS HALL OF FAME 殿堂入り
平成30年5月6日

(受賞日順)

後援会だより

東京電機大学後援会・第2回常任評議員会開催

7月7日に東京千住キャンパスにて、東京電機大学後援会第2回常任評議員会を開催し、平成30年度後援会予算から、学生支援活動補助として7項目（課外活動支援、キャリア形成・就職支援、国際交流支援、研究活動等支援、学生生活支援、こころとからだのサポート24、仲間づくり支援費）、総計16,110,000円の支援を行うことが審議、承認されました。

なお、当日は「後援会イベント参加支援」審査を行い、下記の学生団体・学生への支援が決定しました。



第2回常任評議員会

今年度支援が決定した学生団体・学生

団体名(所属キャンパス)	イベント名
工学部第二部アマチュア無線部(東京千住)	JARL主催 第61回フィールドデーコンテスト
TDU Space Project(埼玉鳩山)	国際大会 ARLISS(アリス)、第15回 種子島ロケットコンテスト
FCV・EVプロジェクト(東京千住)	ワールド・グリーン・チャレンジ・ソーラーカー・ラリー
競技かるた同好会(東京千住)	第25回全日本大学かるた選手権大会
自動車部(埼玉鳩山)	Honda エコマイチャレンジ2018 第10回もてぎ大会 Honda エコマイチャレンジ2018 第38回全国大会
硬式野球部(東京千住)	東京新大学野球連盟 平成30年秋季四部リーグ戦
蹴球部(埼玉鳩山)	平成30年度 第51回埼玉県大学サッカーリーグ戦【後期】
工学部第二部ボウリング部(東京千住)	U22 4th Fukuoka Summer Cup 2018

校友会だより



平成30年度 技術士会総会および、技術士合格者お祝いの会

7月14日に東京千住キャンパスにて、平成30年度技術士会総会を開催し、東京電機大学を卒業した技術士26名の方が出席されました。

さらに、総会終了後に技術士合格者お祝いの会を開催し、新たに技術士の資格を取得した卒業生4名を招待して、その難関達成を讃えると共に資格取得までの体験を語っていただきました。学園からも平栗健二統括副学長をはじめとする10名の方がご出席されました。

本学の技術士会は、大学が行う技術教育などに協力し社会貢献につながる活動を目指しています。



本学を卒業した技術士26名が出席

出版局 新刊のご案内

第一線の著者陣により解説された本の10年ぶりの改訂版をご紹介します。

デジタルプリンタ技術 改訂 インクジェット

日本画像学会 編／藤井雅彦 監修

A5判 308頁 3,564円

インクジェットプリンタをとりまく研究・技術動向や、基本的な性能の向上、インク材料の多様化等の変化を踏まえて改訂。



学生だより

第29回 IDC ロボットコンテスト 大学国際交流大会に出場

～世界中から集まった学生とロボットを製作～

未来科学研究科 ロボット・メカトロニクス学専攻1年
比留間 達耶



8月6日から18日までの約2週間、東京工業大学（東京都目黒区）で開催された第29回 IDC ロボットコンテスト大学国際交流大会（IDC ロボコン）に参加しました。私がこのコンテストに参加した動機は、小中高でもものづくりの機会に触れ、大学で学んだことの集大成として挑戦してみたいと思ったからです。

本大会にはアメリカ、メキシコ、インド、韓国、タイ、中国、シンガポール、日本の8カ国の学生が参加し、開会式でのくじ引きにより5人1組の混成チームが結成されます。チームで戦略や機構を考え、2週間でロボットを2台製作しコンテストを行います。

英語でのコミュニケーションは初めての経験で、初日は聞き取ることが精一杯でしたが、戦略や機構の話し合いではジェスチャーや絵も交えて自分の意見を述べました。コンテストでも準優

勝することができ、私もチームに貢献できたのではないかと思います。

その他、一緒に食事をし国や文化の話題を話したり、花火大会に行ったりと他チームとも仲良くなり、一生忘れられない貴重な経験となりました。

苦勞した英語での
コミュニケーション



結果は準優勝

時代を越えて—東京電機大学の軌跡

戦後発展期(1) | Vol.13 |

〈昭和24年～昭和36年〉

昭和24年、学制改革を機に電機工業専門学校を基にして、創立以来の念願であった東京電機大学（工学部第一部）を設立、初代学長に丹羽保次郎を迎えた。昭和26年3月、私立学校法に基づき、財団法人を学校法人に組織変更、学校法人電機学園初代理事長に服部碩彦が就任した。

開学以来の伝統ある夜間教育を発展充実させるため、昭和25年、短期大学部（初代学長宇野辛一）を設立、さらに工学部第二部（昭和27）を設置。

昭和26年、附属電動力応用研究所（初代所長竹内寿太郎）を設立。これは昭和57年、総合研究所に発展的に解消するまで、大学の研究の核として活発な研究活動を行い、学内外に幾多の俊才を育てた。

大学の社会的活動の一環として、昭和26年会



大学発足時の教授陣

津若松市で夏期大学を開催（以後、地方都市で7回開催）、これは地方文化の向上、地方在住卒業生と本学教授との親睦交流、東京電機大学の広報などに役立った。

一方、高等学校には、産業教育振興法に基づく助成金が、昭和27年より5年間に計2,786万円交付され、これは私立学校として最高額であった。また昭和32年文部省より産業教育研究校に選ばれ、2年間の研究後、同34年10月研究発表会を開催した。

出典「学校法人東京電機大学75年史 小史」
（一部読みやすく修正しています）

今月の俳句

教職員親睦会「千住俳句会」

蜥蜴 右子供左に跳ね逃げる
片恋に蜥蜴は道を迷いたり
沸き上がる若葉に手入れ追いかず

知多（絹川博之）
七美男（松田七美男）
陽一（阿部陽一）

Information

オルセー美術館 リマスターアート展 総務部(企画広報担当)

フランス国立オルセー美術館が公認し、名作絵画の原画の筆さばきや絵の具のタッチまで忠実に再現したレプリカを展示する「オルセー美術館 リマスターアート展」を開催します。

また、工学部情報通信工学科の画像処理研究室(長谷川誠教授)による研究成果や、パナソニック4Kテレビによる新たな絵画鑑賞の形をご紹介。ぬり絵や模写、虫めがねを使った観賞などもお楽しみいただけます。



- 日 時 10月23日(火)～11月4日(日) 10:00～17:00
※10月28日(日)休館
- 会 場 東京千住キャンパス 1号館 1階 電大ギャラリー
北千住駅東口(電大口)徒歩1分
- 展示作品 ミレー「落ち穂拾い」、モネ「日傘の女」、
マネ「笛を吹く少年」、ゴッホ「ローヌ川の星降る夜」ほか
- 入 場 無料
- お問合せ 総務部(企画広報担当) TEL: 03-5284-5125



リバーサイドコンサート in 東京電機大学 総務部(企画広報担当)

足立区生涯学習センターで開催されているリバーサイドコンサートを、今年も東京千住キャンパスで開催します。出演は「コキリカ家」。ヴァイオリンとピアノのアンサンブルでクラシックからポップスまで幅広いジャンルの演奏曲をお楽しみください。

- 日 時 10月27日(土) 14:00～15:00 (受付開始 13:30～)
- 会 場 東京千住キャンパス 1号館 1階 電大ギャラリー
北千住駅東口(電大口)徒歩1分
- 出 演 コキリカ家
丸木 美花(ピアノ)・小寺 里枝(ヴァイオリン)
- 定 員 先着80名
- 入 場 無料(事前申込不要)
- お問合せ 総務部(企画広報担当) TEL: 03-5284-5125



編集後記

夏休みが終わり、キャンパスは沢山の学生で賑わい始めました。夏の終わりは、なぜかいつも寂しさを感じてしまいましたが、活気のあるキャンパスに元気づけられました。

皆さんはどんな夏を過ごされたでしょうか。休んで養った英気を糧に年末まで頑張りましょう。

TDU

学校法人東京電機大学 (総務部企画広報担当)

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL. 03-5284-5125 FAX. 03-5284-5180

E-mail:soumu-kikaku@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>



この印刷は環境保護の為、印刷に伴う廃液を排出しないシステムで印刷されています。



日本印刷協会協会のR200規格を遵守